

会議録

日時：令和5年2月27日（月）16：00～17：00

会場：岩手県立宮古北高等学校 大会議室

会議名：令和4年度 岩手県立宮古北高等学校 第2回学校評議員会

議長：大森博文〔宮古北高等学校／副校長〕

記録：藤倉琢哉、藤村綺良々〔宮古北高等学校／校務渉外部・総務課〕

出席者：（評議員）高橋敦 加藤洋一郎 前田宏紀 （協働パートナー）田中和七 早川輝

（以下、教職員）佐藤禎信 大森博文 中屋眞知子 佐々木和彦 新山繁昭 村上和隆 舞田寛武
高橋まりあ 藤倉琢哉 藤村綺良々

（1）学校長挨拶

今年度の学校行事はウィズコロナのなかで工夫して実施できた。探究的な学びの実施については、地域の皆様の多大なご協力をいただき実施することができている。生徒の自己肯定感の向上に大いに作用している。オリンピア、宮北祭、修学旅行の各行事についても。

次年度からは、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を予定しており、校長の方針を承認していただいたり、学校経営にご意見をいただくことになるので、よろしく願いたい。

（2）学校評議員及び魅力化協働パートナー自己紹介

（3）学校概況説明並びに質疑応答 ※特記事項のない内容については資料の通り

ア 令和4年度学校経営計画について及び教育指導計画の実施状況について

・生徒指導について

（情報提供）

2019年の台風の影響、その後もコロナウイルス感染症の影響で中止になっていた田老運動会を今年是非実施したい。北高生にも参加していただきたい。

・進路指導について

（質疑）

令和4年度の3年生の進路状況について

【回答省略】

イ 令和4年度県受託事業について

ウ 令和4年度学校間交流等について

エ 令和4年度いじめ対策委員会について

オ 三つも方針（スクールポリシー）について

（4）学校評議員助言

○自己肯定感の向上の重要性について、強く共感する。少人数の良さを活かし、地域との交流を通じて、自己の良いところを知るための活動を行ったり、成功体験を通し、自己理解をさせたりとても良い活動だと思う。安全・安心な学校作りに関して、いじめ・盗難を見逃さない指導を続けて欲しい。正面から取り組んで改善していくのが良い。

- 今年度のトークフォークダンスに参加した際に、学年によって学校生活充実への満足度が違うと感じた。学年の人数によって、そのような差が出ないように配慮して欲しい。地域の方々にも堂々と元気よく挨拶をして欲しい。自己肯定感は一朝夕に身につくものではない。その点は地域に頼っていただきたい。地域の老人たちは、若い人が話を聞いてくれるだけでとても喜ぶので、地域に入ってきてもらいたい。
- 「復興たろう大漁まつり」では元気よく生徒に参加してもらい、とても感謝している。たいへん役に立っていた。元気が良くて楽しくやっていた。今年も参加してほしい。
- 地域のイベントが中止になっていたが、開催されるとなったときには様々な活動に参加してもらいたい。高校生らしく輝いて欲しい。
- 総合的な探究の授業で1年を通して生徒達と関わっているが、年単位で見るととても生徒達の成長を感じる。数値には見えないが質的に変化している。その成長を外に発信しても良いのではないか。(小・中学生、保護者等にも良い影響になるのでは) 宮北を志望する生徒が増えると思う。自己肯定感は現代社会の問題でもあると思う。人口減の中で、周りから大切にされる環境があれば、自己肯定感は向上すると思う。これからも協力できることがあれば取り組みたい。

(5) その他

特になし